石尊山　初冬

報告（YAZA）

〇山行日：2017 年 11 月 12 日

〇メンバー：SOLO

「あきやまごう・とりかぶとやま」漢字にすると「秋山郷・鳥甲山」、実はこの呼び名に前々から憧れていた。登りたい山ではあるけれど登山口までが遠い。

１１月の中旬に土、日と珍しく二連休があり、ガイドブックを見ると日帰りでも行けるかな、土曜日に登山口まで入れば何とか登れそうだと思い、急遽計画書を作成して登山届を提出して出かけた。ところが、今年は夏が滅茶苦茶暑かったくせに１０月頃から冬の到来が早いことを思わせた。１１月になると秋から一気に冬になったような気圧配置、西高東低が現れた。計画した土、日もこの気圧配置になった。鳥甲山は長野県にあるとはいえ新潟県の境に近い。冬型気圧配置になれば天気は荒れる。この時期、雪になるかも知れない。気温も低く道路も雪かも知れない。荷の中にはアイゼンはない。天気予報を確認すると土、日は県境は雨か雪。早々と諦めた。憧れの山には天気のいい日に登るのが一番イイ。

石尊山は、信濃毎日新聞社が発刊した「信州ふるさと１２０山」というガイドブックで知った。浅間山の好展望とあり、ずいぶん前に浅間山に登った時に端正な浅間山に感動し、その浅間山を近くから見られるならと思い石尊山に登ることを決めた。

土曜日に車中泊をして日曜日に登山口である追分という所に向かった。軽井沢といえば坂井さんの別荘ある場所だった。車中で、まさかここじゃないよなぁという会話をしていた。車が数台停められるスペースがあった。すっかり葉を落とした林の中の緩い傾斜の道を進む。どこまで行っても同じ様な林の風景が続く。やがて林道に出て沢の音を聞き、沢を見た。再び樹林帯に入りひたすら前に進む。また林道、そこに標識が建っていた。林道を左に進むと座禅窟という所があるようだ。帰りに寄ることにして、再び山道を進んだ。左側に沢があり茶色の水を流していた。滝があり豪快に水を落としていた。血の滝と命名されていた。

＜血の滝＞

茶色の水を血の色として表している。血の滝を後にして進むと大きな標識が出てきた。そこで道は左右に分かれていた。左に進んだ。やがて道が急坂に変わった。落ち葉が深く枯れ葉をラッセルしながら進んだ。やがて平な所に出た。石尊平という標識が建っていた。そこからまた急坂が始まっていた。薄らと雪が載った道を登った。山頂まであと少し、ふと後ろを振り向くとでっかい山体がどっしりとしていた。浅間山である。その大きさに感激した。

＜浅間山を目の前にした石尊山山頂＞

山頂からあらためて浅間山を望んだ。天気が良く浅間山全部が眺望できた。山頂からの展望を十分に堪能してから下山にかかった。下山の途中で座禅窟に寄った。山の斜面に大きな岩が折り重なり、その岩によって空間ができ、そこで修行していたらしい。また先の血の滝にも岩でできた窟があり、その中に岩に掘られた仏像が２体祀ってあった。その間に坐ってみたが、悟りは得られなかった。残念！

下山届を提出した後に SAKA さんから「私の別荘は登山口である追分にある」というメールが入った。えっまさかねぇ。また FUJI さんからもメールが届いた。鳥甲山は一緒に登りましょうという内容だった。その日を楽しみにしながら帰路に就いた。

天気が良く青い空が拡がっていた。青い空を見上げるだけで幸せな気分になった。これが山の魅力である。